

内閣府地域主権戦略室
上田 恭平

平成22年4月 総務省採用
同 自治行政局地域自立応援課
平成22年8月 徳島県県民環境部地域振興総局
市町村課
平成23年5月 同 企画総務部財政課
平成23年9月 現職

地域主権改革の実現に向けて



私は今、内閣府地域主権戦略室というところで、地域主権改革の推進に携わっています。皆さんからすると地域主権改革とは、具体的なイメージが湧かない言葉かもしれません。例えば保育所の設置に関し、これまで全国一律に国で児童1人あたりに必要な面積の基準が作られてきました。しかし、東京都など住宅価格が高く、スペースの確保が難しい地域では、待機児童が多くても、この基準により多くの児童を受け入れられない状況が生じています。そこで、地域主権改革の一環として昨年成立した第1次一括法により、全国一律だった基準を、地域の実情に応じて地方自治体が条例で定めることとしました。地方自治体は、条例で国の基準よりも広い面積基準を定めることが可能ですし、一部地域では基準を緩和することもできるようになったのです。地域主権改革は、このように住民に身近な行政について、そこに住む人々が自らの判断で主体的に取り組めるようにするための改革です。

地域主権改革に関してはメディアからの関心も高く、複数の会議が開催され、国会でもたびたび議論になります。そういった会議の開催や国会関係の業務が私の主な仕事です。首相官邸や国会に行く機会も多く、刺激的な日々を送っています。多くの人に影響する改革なので、会議が紛糾することなどもありますが、その困難に耐え、無事に会議で結論が得られた時には、この上ない達成感があります。

今はこのように内閣府で働いている私ですが、去年までは徳島県で統一地方選挙と予算編成の仕事に携わっていました。若いうちに、国・地方で多くの職場を体験できることは、総務省に入る大きな魅力だと思います。国の立場からものごとを見るだけでなく、「この政策は、徳島の人たちにはどんな影響を及ぼすだろうか」と思いを巡らすことのできる、そんな国家公務員になりたいと思っています。

総務省行政管理局企画調整課
鈴木 浩文

平成23年4月 総務省採用
現職

志望時の思いを実現できる職場



学生時代、「人に貢献できる仕事をしたい」と考え、就職活動をしていました。あるとき総務省の採用説明会に参加し、国の行政のマネジメントに関する業務について知ったことが、志望のきっかけとなりました。「行政は社会に広く影響を与えうる重要な政策等を担っている。その行政全体の在り方をより良くすることを通じて、多くの人に貢献したい」と思い、総務省の門を叩くことにしました。

入省後、行政管理局企画調整課に配属され、局の総括としての仕事をすることとなりました。行政管理局は、国の行政機構・定員等の管理をするとともに、国家行政組織法や行政手続法など行政制度に関する法令を所管しています。局内における政策課題に関する議論は、霞が関全体、延いては社会全体に影響を与える案件が多く、まさに志望時の思いを実現できる職場の一つに出会えたと思っています。

多くの人に貢献できる仕事をしたいと考える方は、是非総務省の仕事に触れてもらえればと思います。

内閣官房郵政改革推進室
田中 昭男

平成22年4月 総務省採用
現職

欲張りなあなたに総務省



民間の就職活動を経て郵便や放送に興味を持ったことが総務省を志したきっかけです。就職先を一つの企業に絞り込めずに悩んでいた自分にとってあらゆる通信分野に携われる総務省は魅力的でした。

現在は郵政事業を見直すためのプロジェクトチームで、外務省や金融庁と協力しながら、諸外国の郵政事情を調べたり外国政府や国際機関に改革の内容を説明したりしています。まだ裏方の裏方ですが、仕事を円滑に進める上で情報のふり分けや他府省との調整など若手も大切な役割を担っています。同じ職場にいても去年と比べて活躍できる場面が増えてきたと手ごたえを感じる時があり、それが仕事を面白いと思う瞬間です。

総務省が地方自治から情報通信まで幅広く所管していることは皆さんもご存知だと思いますが、それだけでなく、例えば郵政に限ってもWTO協定や金融法制など思いの外広いテーマを扱いながら仕事をしています。総務省は様々な興味関心に応えてくれると同時に見識を広めるきっかけを与えてくれる職場だと思います。

京都府総務部自治振興課
山本 糸央里

平成23年4月 総務省採用
同 自治行政局地域政策課
平成23年8月 現職

「面白そう!」を大切に



私が国家公務員を志したのは、物心ついた頃から不況のただ中で、先行き不透明なこの国を、自分の手で何とかしたいという「正義感」からでした。一方で、数ある省庁の中から総務省を選んだのは、「面白そう!」だったから。あまりに単純ですが、これに尽きます。

なぜ、総務省が面白そう!と思えたのか。これには2つの要因があります。

まず、私が生まれ育った山口県や瀬戸内海に思いを馳せるように、総務省の先輩方も、それぞれのふるさとや赴任先での経験・思いを武器にして霞が関で働いておられる点が、「他の職場にはない」と、心に響いたことでした。

また、私は、学生時代の経験を通じて、自分がまだまだ未熟な人間であることを痛感していました。そして、総務省に入省し地方と霞が関を行き来しながら仕事をすることは、地方の現場において、知識だけではなく、自分という人格で体当たりし、自分を鍛え続けることだと気付きました。総務省の先輩方は、そんな弛まぬ努力に裏打ちされた人間的な魅力に溢れた方ばかりで、私もここで、行政官としても人としても成長したいと強く思ったのです。

実際に京都府へ赴任してからは、能力以上の仕事を与えられ思い悩むこともありますが、市町村担当課として市町村を奔走したり、週末に愛車を飛ばして京都のすみずみまで満喫したりと、一つ一つの経験が私の心の軸になっていることを実感しながら、充実した毎日を送っています。

みなさんも、就職活動を通じて様々な方のお話を存分に聞き、「面白そう!」という心の声に素直に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。総務省が少しでもみなさんの心を躍らせることができたなら、これほど嬉しいことはありません。



総合職事務系 先輩からのメッセージ

②幅広く広がるフィールド

Ministry of Internal Affairs and Communications